

第4章 地域(草加市)を探る

この小單元では、校区調べで判明した地域の現実から、学習対象とすべき事象を選定し、さらに内容を深めていく。そのために、自治体レベルで客観的な統計資料を用いて地域を分析し、その事象の意味を深めていく。また、ここでは、地域をつくる地域住民を登場させ、地域形成の現場を体験する。こうした、地域のさまざまな現実から学習対象としての事象の絞り込みは子どもたちの力ではできないことであり、ここは教師の力の見せ所である。このように、本小單元は子どもたちの調べっぱなしで終わるのではなく、そこから学習対象を引き出し、さらに深く学習し、地域の成り立ちを知る場である。

草加市は、東京に隣接し、急速に都市化し、また、近年再び人口増加が著しくなった地域である。校区は、草加市の都市化の嚆矢となった松原団地開設と同時に開校した。勤務校は、校歌に「白亜の家地の立ち並ぶ松原団地陽に映えて」「躍進の声わく辻に」などと開校当時の地域の様子を伝える一節がある。そうした地域であるが故に、都市化を中心に自治体の資料分析を進めた。この小単元の構成は、地域の現実に即して構成すればいい。

この小單元では、地域の実態を深く分析するだけでなく、そこに地域住民がどのように関わったのかを示すこともおこなった。具体的には、団地建てかえに対する団地自治会の取り組みと、都市農業の衰退の中で仲間とともに新しい都市農業を模索する農民の取り組みを紹介した。地域形成は、外部的な圧力によってなされるがままに変わるのではなく、その現実に対する地域住民の取り組みがあつてこそ成立するものである。地域的特徴の表現は、単に統計資料の分析で示すのではなく、このような営々として続けられている地域住民の行動を通して把握していくものである。

ところで、地域の変化は、外部からの圧力によっても変わるが、その変わり方は地域の現状に応じて一律ではない。また、地域住民の行動によって最終的に決定される。こうした図式は、学習指導要領を読み替えることでも捉えることができる。「学習指導要領の解説書」によれば、身近な地域を調べるにあたっては、①地域の環境条件、②他地域との関係、③人々の営み、の視点から把握するとしている。地域の環境条件は自然か環境だけではないこと、人々の営みとは、その地域を良くしようとしている人々の営みと述べている。ここで、外部からの圧力を他地域との関係、地域の環境条件を地域の状況、人々の営みを住民の行動と読み替えても十分に成り立つ。教科書は伝統的な地理的手法にこだわり、地域の実態を見るという立場を忘れていた記述が目立つ。

【授業計画】

- 第1時 校区調べから考える
- 第2時 草加市には、どんな人が住んでいるのか
- 第3時 草加市で人口が増えているのはどこか
- 第4時 団地建てかえと住民
- 第5時 都市化の中の農民

●この授業のねらい

- ①校区の学習から、地域の課題を考える。
- ②草加市の概要を確認する。
- ③草加市の地域の変化のようすがわかる。

この時間は、校区調べで判明した、地域の現実から、社会科地理の学習対象を明確化して、地域の理解の枠組みを作る時間である。子どもたちの調べた地域の現実の中で、学習対象とすべき事象（学習指導要領は「地理的事象として捉える」と述べている）を見いだす時間である。明らかとなった地域の現実を変化の視点から見ていくと、①土地利用の変化（田畑から団地・住宅へ）②進行中の団地の建て替え、③水害問題とその対策、④綾瀬川、伝右川の汚れとその対策、などである。この中で、③④の問題は、一定の解決を見ている。住民運動としては水害問題に対する団地住民の運動や、市民有志による「綾瀬川をきれいにする会」の運動はあるが、現代の問題として子どもたちの中に切迫感はない。②の問題はまさに現代の地域の問題であり、自分たちが暮らしている地域が変化しようとしていることについて関心が高い問題であった。もう一つは、地域の変化に派生して、農家がどうなったのかという問題であり、これは授業の中で教師側から問題提起をしていった課題であり、問題提起もあとでおこなった。

この時間では、団地の建てかえ問題を考える上で、草加市がどう変化したのかを概観する時間として設定した。前述のように、草加市の都市化の嚆矢は校区内にある松原団地の建設に始まっており、子どもたちにとっては変化の原点にいたということを改めて感じ取らせる設定である。

●この授業で用いる教材・教具

草加市の地図、校区調べのレポート

●授業展開

展開1 校区調べから校区の課題を考える

- ・これからの地理の学習の流れを話す。（校区→草加市→埼玉県→日本各地→世界各地）
- ・校区調べはとても良かった。（良かったことは、よく話を聞いて調べてきたこと、自分達で調べてきたこと、よく現実をつかんでいること。）
- ・テーマをまとめてみると、松原団地の建てかえを調べた人が多かった。団地に住んでいる人は手を挙げてください。
- ・その中で、建て替えで引っ越した人はいますか。
- ・プリントを見てください。ある班の調べたものを印刷しました。よく読んでください。
- ・ここで調べた人たちは団地の建てかえできれいになることはいいことだと考えていましたが、住んでいる人に聞いた意見はどうでしたか。（賛成でない人が半分くらいいる。）
- ・皆さんはどう思いますか。（自由にいわせる）
- ・これだけで考えるのは難しいので、周りの様子から調べてみましょう。

展開2 地図で調べる草加市の概要

・ここに草加市の統計書があります（実物を示す）。それから、これは草加市の地図です。（地図は黒板にはる。）ここから取り出した資料と、地図を見て考えてみましょう。

※地図は、市販の市街地の地図。（昭文社発行）市内の主な川、道路、鉄道を着色。

- ・まず、地図で、東武線がここを通り、これが綾瀬川で、これが4号国道です。松原団地はどこですか。だれかおしえて。
- ・では栄中はどこ。（栄中の位置にマグネットを置く）

- ・草加市の白地図を配りますので、今確かめたところを塗ってください。

展開3 統計で見る草加市のようす

- ・松原団地にはたくさんの方が住んでいます。そこで、草加の資料から人口の変化を調べてみます。(国勢調査について説明する。)
 - ・(資料1の国勢調査の人口変化の表を配り説明した上で)プリントに空欄に人口数を記入させ表を完成させる。
 - ・10年ごとの変化のしかたで気がついたことをいってください。(自由にいわせる)
 - ・よく見ると資料では人口はどの辺から増えていますか。(1960と65年の間から)
 - ・このころどんな事がありましたか。(地下鉄日比谷線の東武線乗り入れ、松原団地駅開設、松原団地の建設)
 - ・地下鉄が入ると何が便利になりましたか。(東京の都心に乗り換えなしでいける。)
 - ・資料1に田畑と宅地が、草加市の中でどのくらいの割合を示しているのかの資料もつけました。この変化を見て気がついたことはありますか。(昔は草加市の大方は田んぼと畑だった)
 - ・田んぼや畑は何になったのでしょうか。(住宅地)
- ※意外と百分率の計算はできても読み方がわからない子どもがいるので、丁寧に説明した方がよい。世界が100人の村だったら等の例を出すと分かりやすい。
- ・住む人が増えると、家が必要になり、その分、田や畑が減っていますね。
 - ・まとめ(松原団地ができて、約2万人の人が入ってきて、他の所にも家が建ってこの5年間で人口が倍になり、その後の10年間で更に倍になりました。そして田や畑が減りました。草加の変化は松原団地の建設から始まりました。)

2 草加市にはどんな人が住んでいるのか 草加市を探る／第2時

●この授業のねらい

- ①草加市民の年齢構成と職業構成の変化がわかる。
- ②統計から地域の変化が読み取れる。

この時間は、前時で把握した草加市の変化の概要から、都市化の問題をさらに深く分析する時間である。草加市の統計資料をそのまま見るのではなく、一定の加工をして分析するが、この時間はそうした加工した資料から現実を知り、資料の加工の必要性を認識する時間でもある。都市化は人口増加が基本であるが、ここではどのような人が草加に住むようになったのかを分析することを中心とする。最後に、同じような資料であるが、質の違う資料を見ることで、別のことがわかるということも体験する。こうして、草加市の変化を人口増加と産業の変化からわかるという時間となる。ここでは、統計資料は3種類しか用いない。資料を分析する方法や意味をじっくりわかって欲しいので、資料は絞り込んだ。また、統計資料はプリントで見るだけでは、何を見ているのかわからないので、プリントの統計資料は拡大して黒板に掲示する。

●この授業で用いる教材・教具

草加市の地図、拡大コピーした統計資料、電卓、「草加の統計」

●授業展開

展開1 資料を整理する

- ・「前の時間に草加市は急激に人口が増えたことがわかりましたが、草加に住んでいる人はどんな人たちなのか、どのように変わってきたのか調べてみます。このことを調べるためには、なにを見ればいいでしょうか。」(……)
- ・「この本を見たことはありませんか。」(ない)
- ・「この本は『草加の統計』という本で毎年でています。市の図書館にありますし、市役所に行けば買えます。この本にはいろんな統計資料が載っているので、便利です。」
- ・「この資料のなにを調べればいいでしょうか。…といってもわかりませんから、必用なものを出して調べてみます。」
- ・「まず、草加に住んでいる人は、どんな仕事をしているのかを調べます。資料1は草加に住む人たちの働いている主な産業をまとめてみました。」
- ・「この資料は、5年ごとにおこなわれる国勢調査という者からまとめたものです。国勢調査は5年ごとの10月1日前後にアンケートをしてまとめるものです。だから、かなり正確です。資料を読みとるのに5年ごとでは細かすぎるので、10年ごとに集計しました。でもまだ2005年はまとまっていませんので、2000年のものをつかいました。」

※プリントの資料を拡大して掲示し、見ながら統計を見ていくとわかりやすい。

- ・「統計資料には産業別の人数が載っていますが、前にいったように主なものを載せました。農業、工業はわかりますね。卸・小売業はお店関係の人です。運輸・通信業ってわかりますか。」
- ・「そうです。宅配便の人や携帯電話関係の人ですね。次のサービス業は何だかわかりますか。」
- ・「むずかしいですね。物は売らないけど、サービスを提供する仕事です。例えば、学習塾とかスイミングクラブとか、旅館やホテルのようなどころとか色々です。」
- ・「産業別の人数がのっていても、人数全体が増えているので比べにくいですね。そこで、パーセントつまり百分率を計算しました。小学校で勉強しましたが、覚えていますか。」
- ・「そうですね。全体を百とするといくつかという数字です。例えば、草加市住む人で働いている人が100人としたらその産業の人は何人かというものです。資料1で百分率は()のなかに書いてあります。」

例えば、1955年の農業の欄を見ると35.2とありますので、草加に働く人が100人いたとすると、35人は農業で暮らしているという意味です。」

※このことは、今の子ども達はあまりよくわからない。計算はできるのだけれど。だから丁寧に説明する必要がある。

展開2 草加に住む人たちはどんな仕事をしているのだろうか

・「では改めて資料1をみてください。そして、百分率の変化をよく見て、大きく変わったところをさがしてください。」

※ここは、子ども達から気づいたことをドンドン出させるといい。子ども達の意見を板書し（どんな意見でも書いてやるのが大切）正統性を資料を見ながら検討していく。

・「みなさんの意見を整理すると次のようなことが言えますね。①農業で働く人はもの凄く減った。②工業で働く人は増えたあとで減っている。③卸・小売業の人は少しずつ増えているけど最近少し減った。④運輸・通信業とサービス業は少しずつ増えている、特にサービス業はおおきく増えた。」

・「各年でいちばん多い産業を教えてください。」（1955年－農業、1965年～85年－工業、1995年～2000年－卸・小売業）

・「そうなんです。はたらく人が多い産業は変わってきているんです。よく見るとサービス業が増えているのうち一番になりそうです。このことは、また後で考えますので、覚えておいてください。」

展開3 草加で働く人を調べる

・「草加に住んでいる人は、草加市内で働いているわけではありません。草加市内で働く人の数を調べてみます。この資料で変化を調べると、草加の産業の変化も分かります。これは、国勢調査と違う調査なので、調査年が違いますが、比較はできると思います。」

・「先ほどと同じように各年で多い産業とその変化を見て、気がついたことを言って下さい。」（工業が減っている。卸・小売業が増えている。サービス業が増えている。）

・「そうです。草加に住む人達の変化とよく似ています。ちょっと違う点は、サービス業が草加に住む人達と比べると多くないです。東京などで働く人はサービス業が増えているけど、草加はそれほどでもないということで、草加の街が遊ぶ街より住む町というという特徴を持っていることが言えます。ただ、2つ資料は似ていますから草加に住む人達は東京やその周りの地域の産業の変化に応じて変化していると言えます。」

展開4 草加に住む人はどんな年齢の人が多いのだろうか

・「いま、子どもの数が少なくなり、老人が増える少子高齢化が進んでいるといわれていますが、草加市はどうなっているのでしょうか。皆さんはどう思いますか。」（子どもが多いんじゃないか、おじいちゃん、おばあちゃんも増えている、草加にやってきた人はみんな年をとっている。）

・「実際はどうなのか調べてみます。資料2を見て下さい。1990年と2000年の人口を調べてみます。資料のまとめ方ですが、国勢調査資料から10才ごとの人口数を計算してみました。この表で0～9才で1990年は22.085人いて、2000年には22.523人いるという意味です。」（子どもは減っていない、老人も増えている。）

・「この表を見る限り、そうなんです、ちょっと考えて下さい。草加市の人口は増えていますので、単純に数だけでは比較できません。そこでどうしたらいいのでしょうか」（百分率を計算する。）

・「そうですね。前と同じように百分率で比較してみます。資料には割合という欄がありますが、そこに2つの年のものを計算してあります。まずは、この10年間でどんな変化があったのか調べるために、この間の差を計算して10年差1に書き込んで下さい。終わったら班で計算した数値を確かめ合ってください。」

・「この表を見て気付いたことと言って下さい。」

※ここで、書き込むという作業を入れたのは、計算し自分で書き込むことによって、自分で資料分析ができるというメリットがあるためである。あらかじめ計算した数値を示しておくとも時間短縮になるが、

いきなり数字を見ても何がなんだかよく分からない。計算して書き込むからこそ数字の意味も分かり、数字から発見ができる。また、発言に対しては様々な意見を自由に言わせる。前と同じように、意見は簡単に板書する。その上で、整理する。

・「皆さんの考えをまとめると①子どもの数はあまり変わらない。②20～50才代の人が多い。60才以上の人も増えている。といえます。」

・「でも、単純に比較しただけでは、分からないことがあります。人は年をとりますから、10年経つと統計上はもう一つ上の所に行きます。例えば、1990年で50才代の方は2000年にはそのまま草加市に住み続けていたら60才代の所に行きます。だから、2000年に60才代の方が増えたのは、この年代の方が多かったからということです。」

・「そうすると、本当の人口の年齢別の増減を調べるには、この10年間でどう変化したかを計算してみると良いと思います。つまり、1990年で50才代の方の数と2000年に60才の方の数を比較してみるとということです。もちろん、この十年間に草加市から出て行った人もいれば、他の市からやって来た人もいますし、亡くなった人もいます。そう言う変化全体が計算すると分かります。計算の仕方の例は資料2の下に書いてありますので、それを参考にして下さい。では計算して、10年差2の欄に記入して下さい。班で数値を確かめ合ってください。」

・「計算した結果を見て、気づいたことはありますか。」

・「人口が増えている年齢はどこですか。」(20才代、30才代)

・「特に20才代の方が増えています。先ほど人口が増えているといった60才代の人達も実は減っています。20才代の人達が増えるとする、子どもの数もあまり減らないということになります。この人たちは草加市以外から移り住んだ人たちと考えられますので、草加市は若い人が移り住むということから人口上の特徴がつけられていると言えます。」

●この授業のねらい

- ①最近の草加市の人口増加地域を捉える。
- ②人口増加地域の人口増の理由から草加市の人口増加の要因を把握する。
- ③松原団地建てかえの背景を把握する。

ここ3時間の授業のねらいは松原団地建て替えの背景を探るということである。大きく考えると、団地を管理する都市再生機構の経営戦略としての団地建て替えと余剰土地の売却ということになるが、いきなりこの話はできない。そこで、住宅需要から背景を考えることにし、東京都心部の人口増加の影響として捉えることにした。そのため、資料では、詳しく人口分析をおこなう。本時は、市内の詳しい人口分布を調べて、そのことから、草加の人口変化の様相を調べ、そこから、住宅需要を引き出したい。団地建て替えは、建物が古く狭いという決定論でなく、住みたい人がいるから立て替えるという結論を持ちたい。

様々な手法で地域を分析するが、出てきた結論を大切に、細かな分析結果は、知識として求めない。大切にしたいのは、自分の住んでいる街を分析して分かった意外な発見である。

●この授業で用いる教材・教具

草加市の地図、拡大コピーした統計資料、色違いのマグネット各5個

●授業展開

展開1 草加に住む人たちはどこから来たのか

- ・「前の時間に、草加は外から移ってきた人が多いことを勉強しましたが、『草加の統計』に都道府県別の転入数という資料がありますので、多い都道府県を調べてみました。皆さんは、草加市に移った人はどこから来た人が多いと思いますか。」(……)
- ・「皆さんの意見をもとに三択です。①埼玉県 ②東京都 ③北海道」
- ・「ではプリントを配りますので確かめて下さい。」
- ・「埼玉県が多いんです。でも昔は東京が多かったですね。約30年前と比べて埼玉県は増え、千葉や神奈川はあまり変わりませんから、東京からの転入が減ったということです。」

展開2 草加にやってきた人はどこに住んでいるのか

- ・「草加市に移り住んだ人がどこにたくさん住んでいるのかを調べるには、どの地域が人口が増えているのかが分かればいいです。『草加の統計』に町丁別の人口と人口増加率が載っていますので、今それを配りますので、見て下さい。」
 - ・「では、その資料を見て、人口増加率の多い地域と少ない地域ベスト8を調べて、プリントの資料2に書き込んで下さい。できたら班で確認して下さい。」
- ※ここでは、草加市の地図を用意し、黒板に掲示する。街の主な配置は確認する。(川、道路、鉄道と駅、自分の学校) 駅はマグネットで示す。川や道路はあらかじめ着色しておく。地図については、役所に行くと1万分の1の土地計画図を多くの地方自治体で発行しているので、それを利用すると良い。
- ・「では誰か前に出て、このマグネットで増え方の大きい町ベスト8にこのマグネットを置いて下さい。」
 - ・「増え方の少ない町ベスト8もマグネットをおきます。やってくれる人はいませんか。」
 - ・「最近人口が増えているのはどんなところですか。」(駅の周りが多い)
 - ・「人口の増え方が少ないところは」(草加のはずれの、団地)
 - ・「人口が増えている駅は何駅ですか。(草加、松原団地、谷塚)
 - ・「この3つの駅に共通しているのは何でしょうか。」

・「よく考えて下さい。駅前がきれいになっています。谷塚は駅前に谷塚コリーナという25階建てのマンションができました。草加はアコスというお店ができました。松原団地はどうですか。」(ハーモネスタワー、図書館)

・「共通しているのは」(駅前に大きな建物が建った)

・「そうです。こういうのを駅前開発といいます。一つ何かができると、住みやすい町ということになり、マンションがドンドン建ちます。それで人口が増えているのです。前に調べた校区しらべでマンションが建っていることを調べてくれた人がいますが、松原鱈団地駅の周りにもたくさんのマンションが建ちました。そこに住んでいる人もいます。」

・「昔は一戸建ての家が駅から遠いところに建ちましたが、今は若い人が草加に住むようになっているので、駅に近くて色々便利なところが良いということで、駅の周りに住みたい人が多くなり、マンションも建ちました。その証拠に、駅前に何も変化のない新田駅の周辺では人口増加ベスト8に入る町がありませんでした。」

・「ここで資料3を見て下さい。草加に住む人のはたらき先とその変化が出ています。この表を見て、気がついたことを言って下さい。」

・「東京で働く人が倍以上になっています。そうすると、駅の近くの方が通勤に便利ということも言えます。」

展開3 松原団地建て替えの背景を探る

・「皆さんが校区を調べて、たくさん調べてくれたのが松原団地建て替え問題でした。皆さんが調べた結果をまとめると、建物が古くなり、狭く住みにくく、地震の時危険なので新しくする。町もきれいになる。ということでした。今まで勉強してきたことをあわせて考えると、立て替える理由は別に考えられませんか。」

・「駅の周りに住みたいという人が増えてきたから、立て替えるんですね。誰も住まないのに、わざわざ立て替えはしません。住みたい人がいる事を見越して立て替えるんです。もちろん、建物が古く、地震の時危険というのも一つの理由です。」

・「草加市は若い人が他から移ってきて住むことで、人口が増えてきているので、駅前に施設のできたところでは駅の周辺にマンションが建つようになりました。松原団地駅の周辺にもたくさんのマンションが建っているのです。団地を建て替えて新しくすると住みたい人がたくさんいる、だから立て替えをいませるのです。」

・「そうすると、どんな問題がでてくると思いますか。」

※学校のマンモス化、保育園・学童保育の不足などが考えられる。

●この授業のねらい

- ①松原団地建て替え計画を知る。
- ②建て替えに対する団地自治会の取り組みを知る。
- ③地域づくりとしての自治会の活動の意味を考える。

本時は、松原団地建て替えを考える。子どもたちの校区調べから、松原団地建て替え計画が住む人にとって家賃などの不安と住み慣れた町の解体に対して矛盾の満ちたものということが明らかとなった。では、そこに住む人は、諦めたのか、何かしたのか、そこから切り込み、松原団地自治会の取り組みで、立て替え計画に一定の変更をもたらし、都市再生機構との協議によって町作りが進行するという、理想的な取り組みが見られる。こうした活動を通して、地域の特徴が形成されるという意味において、学習指導要領のいう身近な地域を捉える視点としての、地域の環境条件としての低湿地の農業地帯、他地域との関係としての東京の影響、人々の営みとしての団地自治会の活動というように位置づけるとすれば、学習指導要領に沿った授業といういいわけもできる。

●この授業で用いる教材・教具

草加市の地図、松原団地快適マップ、校区調べの調査結果から松原団地建て替え計画の構想図

●授業展開

展開1 松原団地建て替え計画を確認する

- ・「今日はもう一回松原団地建て替えについて考えてみます。」
- ・「まず、皆さんが調べた時に、賛成反対色々な意見があることを知りました。それから、これが皆さんの調べた立て替えの計画図です。駅に近いA地区から始めることになっていて、C地区の栄中の真っ正面に花栗小学校と北谷小学校を建てることになっています。」
- ※その後この二校は統合して松原小学校となった（2009年）。新校舎は旧北谷小学校跡地に建設することが決まった。
- ・「皆さんの中で、立て替えのために引っ越した人はいますか。」
- ・「何人かは引っ越しています。それだけ皆さんにも身近な問題なんですね。」

展開2 松原団地自治会の活動

- ・「実際どうなっているのか松原団地自治会に聞きに行きました。そしたら、こんな話を聞きました。プリントを配ります。」
- ・「団地には町会と同じような自治会があります。その自治会では、都市再生機構と話し合いをしていたのです。そのことが自治会の広報に載っていました。」
- ・「資料1と3を見てください。何が書いてありますか。」（建て替え案を検討している。意見を聞いている。）
- ・「自治会は建て替えに対してなにをしていますか。」（意見を公団に言っている。）
- ・「住んでいる人の意見はどうまとめていますか。」（「立て替えを考える会」や「町づくり部会」をつくる。）
- ・「団地の自治会はみなさんの意見をまとめて、団地の建て替えをしている都市再生機構と話し合いをしました。何回も話し合ったそうですが、その結果資料2のような設計になったそうです。図の所々に書き込みがありますので、それをよく見てどのように設計が変わったのかまとめてください。」（……）
- ・「14階の予定の建物を2階だてにかえていますね。あと全体を見て、団地の人たちの意見が採り入れられそうなどころはあるでしょうか。考えてみてください。」

- ・「資料3を参考にすると樹木や公園、集会所などですね。ここでも本当に意見が採り入れられたのでしょうか。」
- ・「プリント2をくばります。資料1をよんでください。」（意見が採り入れられている。）
- ・「具体的にどうなったのかは、資料2を見てください。」

展開3 地域の住民運動としての団地自治会の取り組みを考える

- ・「こうして、団地自治会は団地建て替えに対して、自分たちの意見をまとめて、都市再生機構という大きな団体と話し合い、街づくりに自分たちの意見を採り入れさせてきました。このように、そこに住んでいる人が一つにまとまり、意見をまとめて進んでいくと、勝手に立て替えが進むのではなく、自分たちも建て替えに参加できるということなのです。これは、値域で暮らしている人にとっては大変大切なことです。だけど、不安はたくさんあると言うことは、みなさんの調査でわかっていますので、これですべての問題が解決したわけではありません。」
- ・「プリント3をくばります。よく読んでなんのために『快適散歩道ロードマップ』をつくったのか考えてください。」
- ・「今の町を記録することと、表紙は地域の小学生が書いていて、コースは街づくり部会で考えたものです。要するにみんなの力で町を見つめていこうというねらいなんです。どう思いますか。」
- ・「団地の自治会は、団地の建て替えに対して自分たちの意見を反映しただけでなく、自分たちの力で街をつくっていこうとしているのです。このような地域をつくりあげる地域の人々の営みが新しい街をつくれます。とっても大切なことです。」

●この授業のねらい

- ①草加市の農業の現状を知る。
- ②「わいわいふぁーむ」の農法の意義を考える。

「わいわいふぁーむ」を主宰する伊藤利一さんは、草加市で2番目に若い農業後継者である。中学生の時にすでに農家を継ぐことを決意しており、父の急死によって高校を卒業すると同時に農業に従事した。現在安全な野菜作りを進めるとともに、学校給食に野菜を納入する仲間とともに地産地食倶楽部をつくり、農業の普及に努めている。また、自分の農園を体験農園として公開している。2006年には、草加市の認定農業者に指定された。2007年には休耕田を利用してブルーベリー園をオープンした。

団地建て替えに対して、住民の側の対応を団地自治会の取り組みに加えて、校区の外であるが、都市化が進み、農業を止める農家が激増する中で、農業に取り組み、地域の仲間と手を取り合い、年の中の農業を模索する若い農家がいる。農民個人の取り組みではなく、仲間への広がりの中で、草加の都市農業の特徴を作り出している。それ故、社会科地理として取り上げることが可能である。彼とその仲間の取り組みも、地域をつくる営みといえる。校区外ということもあり、取材に行き、ビデオと写真をとってきて教材にした。その上で、彼の取り組む循環型農業は農業の未来図の一つであり、この実践の大きな柱となる。その意味で、大切な時間といえる。

●この授業で用いる教材・教具

草加市の地図、「わいわいふぁーむ」の写真（A3に拡大コピー）、訪問したときに撮影したビデオ

●授業展開

展開1 草加の農業を見る

- ・「今配ったプリントの資料1に、校区調べで町の移り変わりを地図で示してくれた人がいます。ここは、団地のD地区の商店街の図ですが、どう変わったのか誰か説明してください。」（田んぼ→商店街）
- ・「そうなんです。昔は前にも見たとおり、田んぼや畑がたくさんありました。それが草加市の人口が増えるとともに、どんどん無くなっていきました。」
- ・「資料2には、草加の農家の統計を20年ごとに示したものです。この表で、専業農家とは農業だけの仕事をしている農家のことですが、例えばサラリーマンをしていて仕事を辞めて年金で暮らしている人でも農業をしていれば専業農家になります。農業だけで生活している人が専業農家とはいえません。耕地面積は、田、畑、果樹園、等を合計したものです。この表の見方が分からない人はいますか。」
- ・「この表では、数字はどんどん減っていますが、減り方で気づいたことがあれば言って下さい。」（…）
- ・「耕地面積と1.5ha以上の大きな農家の減り方が激しくなっています。農家の数がそれなりにあるのは、農地を持っていれば農家として数えるからです。農業をするのに大切な耕地が減り、専門的に農業を続ける上で必要な沢山の耕地のある農家の減り方の激しさを考えると、草加市で農業を続けることの難しさが分かってきます。」

展開2 わいわいファームの農業を見る

- ・「でも、農業をしようという人はいます。資料3は草加市が発行している広報そうかに入っていた農家を紹介するパンフレットの中にあつた記事です。読んでみて下さい。」
- ・「このわいわいファームをやっている人は伊藤さんといいますが、さて何歳位の人でしょうか。」（…）
- ・「三択をします。①18歳くらい ②25歳くらい ③35歳くらい、自分でこれだと思うところに手を挙

げて下さい。」

・「答えは③です。実は前の前の学校で教えていた人なのでよく知っています。草加市では、2番目に若い農業の担い手です。単に農家をするだけでなく、体験農園をやり、近くの学校の職業体験の中学生も受け入れています。どんな農業をしているのかは資料4を見て下さい。何か質問はありませんか。作物の名前が書いてありますが、分かりますか。」

・「この写真を見てください。伊藤さんのお家とビニールハウスです。それから、この写真は周りのようすが、ふつうの家に囲まれています。伊藤さんが中学生の頃は、このあたりにはたくさんの畑がありました。お隣も農家でした。」

・「では質問します。伊藤さんは作った野菜をどうやって売っているのでしょうか。」(……)

・「皆さんの意見をもとに三択をします。①市場に出す。②家の前で売る。③八百屋やスーパーに私の作った野菜ですというラベルを貼って売ってもらう。」

・「答えは②です。でもそれ以外の売り方もあります。さて、何でしょうか。」(……)

・「皆さんが食べている給食に使っています。」

・「この前、伊藤さんのところに行ってビデオをとってきました。見てください。この中で、伊藤さんがどんな工夫をしているのか、考えてください。また、よくわからないこともまとめてください。」

・「みなさんは伊藤さんの工夫で何がすごいと思いましたか。よくわからないことはありましたか。」(……)

・「色々でましたね。まとめると、すごいと思ったことは、堆肥のところから湯気がでていて、ミミズがいたこと、小松菜は一度に収穫すると大変なので、種まきの時期をわけていたこと、大きなハウスを自分一人で守っていたこと等かと思います。」

・「よくわからないことは、畑に敷いてあった白いシートのことのようにです。」

・「あの白いシートはなんだと思いますか。みんなで考えてください。」(……)

・「伊藤さんの農業について説明した本がありますので、読んでください。そこに答えが書いてあります。プリント2を配ります。資料1を読んでください。」

・「白いシートは何だったのでしょうか。」(害虫を防ぐ)

・「他に害虫対策としては何をしていますか。」(テントウムシなどの昆虫、農薬)

・「農薬を余りまかないのはなぜでしょうか。」(安全な野菜)

・「人がたべるものに直接薬をまきたくないと言うのです。草加の子どもが食べる給食に使うのだし。あと、隣が普通の住宅なので、そこも考えているんです。農薬は虫を殺す力があるので安全なものといえないところもあります。」

・「それにみんなもいっていましたが、あの堆肥ですね。ああやって発酵したものを畑にまきます。学校の落ち葉が原料です。落ち葉は伊藤さんが使わなければ、どうなりますか。」(ゴミとして捨てる。)

・「落ち葉は使えば肥料になりますが、捨てれば燃やされてそのために石油も使い二酸化炭素も排出されてしまいます。また、害虫退治をテントウムシにさせていました。このように自然をうまく使う伊藤さんのやり方をどう思いますか。」

※ここでは伊藤さんの循環型農業に対する共感の声が圧倒的に多い。

・「でも伊藤さんの農業がうまくいっているわけではありません。資料2を読んでみてください。どんな問題がありますか。」(……)

・「農業だけではやっていけないのですね。農業だけで生活するにはもっと広い土地で色々な野菜を作っていないといけません。でも伊藤さんはなぜ農業をやっていると思いますか。」(……)

・「伊藤さんは農業が面白いといっています。あと、昔から受け継いできた農地を守っていかなければという気持ちも強いと私には話してくれました。」

展開3 地産地食倶楽部とともに

・「でも伊藤さんは1人でがんばっているわけではありません。資料3を見てください。なにが書いてありますか。」(5人の仲間と一緒にやっている。)

・「農業の楽しさをみんなに伝えていこうとしていますね。仲間の方のお家では小学生がトウモロコシ

を生活科の時間にもいできて、別の学年が家庭科で皮をとり、給食で食べるということをやっているそうです。農業が楽しいと思わなければこんなことに協力しませんよね。伊藤さんのところにも保育園で来たりするそうです。」

・「伊藤さん以外の人もすごい農業をやっています。資料4を見てください。」

・「草加で農業を続けることはとても大変なことです。儲からないし、土地は高く売れるし、続けていくことがつまらないと思う人も多いと思います。その中で、伊藤さんやその仲間は工夫して農業を続け農業の楽しさをみんなに伝えていきます。草加では、伊藤さん達の働きかけもあって、学校給食に野菜を提供する人たちが増えてきています。松原団地の自治会もそうですが、一見すると困難と思えることでも、こうして仲間と一緒に地域に働きかけていく人たちがいて、結果として、団地の建て替え計画が変わったり、給食が楽しくなるようなことができています。」